導入検討プラン 08 / 供給と運営を支える

現場の知見を、別の施設でも使える形へ

介護・生活支援サービス

品質と生産性を支える既存のノウハウや道具を、別の施設へ展開するとき。専門職の基準を前提に、周辺業務や情報共有の一つを取り上げます。

> 目指す仕事の状態
>
> 導入先が自分たちで進められる仕事と専門職へ戻す場面を判断し、利用者に向き合う仕事を支えられる。

当社が担う仕事

01 使う施設の条件を知る

人員、経験、使える道具、既存の手順を確認し、提供元と異なる条件を整理します。

02 担う範囲と相談を決める

周辺業務や情報共有の一場面で、担当者が行うことと専門職へ確認する条件を具体化します。

03 利用後の仕事を確かめる

記録・確認の負担と業務の質を見て、導入先が続けられる手順と支援を見直します。

最初に試す一件

記録の受け渡しなど一つの周辺業務を選び、専門職の基準に沿って、導入先の担当者が使う過程を確認します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 導入先が自力で進められる部分は、どこまでですか。
- 人員・経験・道具の違いで、そのまま使いにくい部分は何ですか。
- 記録や確認に使う時間と、利用者に向き合う時間はどうなりますか。

社内に残すもの

- 提供元と導入先の運営条件の比較
- 周辺業務の担当範囲と専門職への相談条件
- 利用・確認負担と支援関係の記録

実践後に確かめること

- 導入先が自力で進められた業務の範囲
- 記録・確認の負担と業務の質
- 専門職への相談と利用者に向き合う時間

一緒に進める人と役割

施設責任者・専門職	専門基準と安全の条件を決め、対象業務を選びます。
提供元 導入先の担当者	道具と手順を試し、使えたことと必要な支援を残します。
当社	条件の比較、実践の設計、利用記録からの見直しを支えます。

実施条件と、役割の範囲

専門職と施設責任者が参加し、個人情報の扱いをそろえたうえで、業務の過程を確認します。ケアの専門判断や安全認定は専門職が担います。専門基準と運営条件がそろう業務から、共同で設計します。

支援を組み立てる根拠

実務を任せる範囲と支援条件を設計する知見を用います。介護の専門内容と他施設への適合は、専門職と確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る